

1. 科目名 (単位数)	音楽Ⅱ (小) (2 単位)	3. 科目番号	EDEL1305
2. 授業担当教員	田口 雅夫		
4. 授業形態	演習 (個人、全員、グループ)	5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係	音楽 (小) を受講していることが望ましい。		
7. 講義概要	「音楽 (小)」の発展として、音楽の基本的な演奏技能と知識を習得し、創造的な音楽教育を実践する能力の育成を目指す。実際には、諸外国の音楽教育の動向を視野に入れながら様々な角度から表現を捉え、声や身体の動きや楽器を媒体として表現を行う方法と、子どもの中にある音楽を引き出す方法を学ぶ。		
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 小学校共通教材を中心としたピアノの弾き歌いができる。 2. 鍵盤楽器や打楽器やリコーダーによる「アンサンブル」ができる。 3. 声や楽器や身体動きを媒体として、グループで音楽作品を作ることができる。 4. 音楽の基礎理論 (楽典) の理解ができる。 		
9. アサイメント (宿題) 及びレポート課題	<ol style="list-style-type: none"> ① 歌唱・ピアノ技術は個人差があるので、苦手な学生は出題された課題をよく練習しておくこと。 ② 高度な理論は必要ありませんが、基礎的な内容は理解しておくこと。 ③ 場慣れの意味で、人前での演奏には意欲的に取り組むこと。 ④ 既にピアノの技術を身に付けている経験者の学生には、その程度に合わせた課題を提示する。 		
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】</p> <p>1 年生の時に使用していた『教員養成課程小学校音楽科教育法』又は『最新 初等科音楽教育法[改訂版]』</p> <p>【参考書】</p> <p>五線ノート等、必要な時に配布・提示します。</p>		
11. 成績評価の規準と評定の方法	<p>○成績評価の規準</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 小学校共通教材を中心としたピアノの弾き歌いができるようになったか。 2. グループによる「アンサンブル」や、音楽づくりに積極的に取り組んだか。 3. 音楽の基礎理論 (楽典) を理解し、説明できるか。 <p>○評定の方法</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 日常の授業への取り組み及び意欲 総合点の 40% 2. 実技発表 総合点の 40% 3. 音楽理論の理解 総合点の 20% 		
12. 受講生へのメッセージ	<ol style="list-style-type: none"> 1. 初心者でピアノ演奏技術向上のためには、一度に長い練習ではなく少しの時間でもこつこつ練習を積み上げるのが大切です。焦らず努力することが必要です。 2. 少しピアノを弾ける学生は、その能力を上手く使う方法を習得しましょう。 3. オンライン授業が想定されますが、キーボードの練習方法について、(紙鍵盤を含む) 鍵盤ハーモニカ・その他が写せるように工夫してあれば、細かいアドバイスができます。 4. 授業中に関して以下の事については厳しく注意します。 <ol style="list-style-type: none"> (1) 音楽室使用規定を守ること。(飲食・楽器の扱い方等) (2) スマートフォン等を使用しない。 (3) 授業中の私語は、真面目に受講している者にとって迷惑です。 		
13. オフィスアワー	最初の授業で説明します。授業の前後を活用して下さい。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	オリエンテーション (シラバス説明・授業概要、音楽歴調査、演奏レベルチェック、課題曲提示)	事前学習	音楽Ⅰの最終授業で取り組んだ曲を練習しておく。
		事後学習	各自の目標及び各自のレベルに応じて提示された課題曲を練習する。
第 2 回	ピアノの演奏及び弾き歌い 音楽理論の復習Ⅰ	事前学習	課題曲を練習する。
		事後学習	復習した音楽理論を再確認しておく。
第 3 回	ピアノの演奏及び弾き歌い 音楽理論の復習Ⅱ	事前学習	課題曲を練習しておく。
		事後学習	授業で学んだ音楽理論を、ピアノの楽譜にあてはめて確認してみる。
第 4 回	ピアノの演奏及び弾き歌い 音楽理論・和音の理解Ⅰ	事前学習	課題曲を練習しておく。
		事後学習	弾き歌いの歌について、一番の歌詞は覚えるようにする。様々な和音を弾いて確認しておく。
第 5 回	ピアノの演奏及び弾き歌い 音楽理論・和音の理解Ⅱ	事前学習	課題曲を練習しておく。
		事後学習	自分の弾いている楽譜から、音楽理論・和音の理解できていない記号等、意味の理解できないことを探してみる。
第 6 回	ピアノの演奏及び弾き歌いの実技発表 リズムを素材とした音楽づくり	事前学習	発表する曲を出来る限り暗譜してみる。 自分の知っている曲を、授業で説明のあった方法でリズム打ちをしてみる。
		事後学習	音楽づくりに関連して、どんなジャンルでも関係なく、自分の好きな音楽にはどんな曲が有るか、その曲の特徴を考えてみる。

第7回	ピアノの演奏及び弾き歌い 和音を素材とした音楽づくり	事前学習	課題曲を練習しておく。
		事後学習	演奏技術に関して、どのようなことが苦手であるか探してみる。
第8回	ピアノの演奏及び弾き歌い メロディーを素材とした音楽づくり	事前学習	課題曲を練習しておく。
		事後学習	歌う声小さくなっていないか、歌いやすい伴奏が弾けているかを確認してみよう。何が歌い易いか否かを考えておく。
第9回	ピアノの演奏及び弾き歌い 器楽合奏について（奏法）	事前学習	課題曲を練習しておく。
		事後学習	合奏曲の伴奏にもチャレンジできるような選曲をしておく。
第10回	ピアノの演奏及び弾き歌い 器楽合奏について（グループによるアンサンブル体験）	事前学習	合奏曲の伴奏を練習する。
		事後学習	器楽合奏の伴奏はメロディーの入らない伴奏形なので、合奏の伴奏形に慣れておく。弾き歌いの発表曲を練習しておく。
第11回	ピアノの演奏及び弾き歌いの実技発表 器楽合奏について（編曲法の実践）	事前学習	合奏曲の伴奏を練習する。
		事後学習	合奏曲の選曲をする。ピアノ実技最終発表への取り組みを開始する。
第12回	ピアノの演奏及び弾き歌い グループによるアンサンブル発表	事前学習	合奏曲の伴奏を練習する。
		事後学習	合奏曲用の伴奏譜で合唱体験をする。
第13回	ピアノの演奏及び弾き歌い 楽譜を使用した簡易伴奏の作り方について	事前学習	自分が作りたい簡易伴奏曲を決定し、参考資料等の簡易伴奏と原曲伴奏の違いを確認しておく。
		事後学習	部分的でもよいので、自作による簡易伴奏を弾いてみる。
第14回	ピアノの演奏及び弾き歌い コードネームを使用した簡易伴奏の作り方について	事前学習	簡易伴奏曲のメロディーを暗譜しておく。
		事後学習	部分的でもよいので、自作による簡易伴奏を弾いてみる。
第15回	ピアノ実技発表 まとめ	事前学習	発表曲を練習しておく。
		事後学習	学習した内容・理解できたことに何があったかを振り返ってみる。更に次年度へ向けて出来る限り楽器に触れておくようにする。